

～神奈川県高文連「高校生茶会」と伊志田高校の取り組み～

私たちは、コロナ禍を過ごしたことで、普通の日常の大切さ、ありがたみを思い知らされました。高校生茶会は、茶道部にとって年に一度の大切な大会です。制限はありましたが、一度も中止になることなく開催されたことに、ただただ感謝するばかりです。席持ち校として、きちんとした点前をすることはもちろん、客として参加した学校のこれからの活動に、少しでも参考となるような新しいアイデアをと思って、毎年私たちなりの工夫をしてきました。

これからも伊志田高校らしい仕掛けをもって、高校生茶会に臨みたいと思います。

2020 第26回 テーマ「和敬清寂～心と心で繋ぐ～」 会場 県立川崎高校

コロナ禍でしたが、奇跡的に開催することができました。各席で「和敬清寂」のテーマを一字ずつ受け持ち、伊志田高校は「和」の席を担当しました。「和」のクイズと景品を用意し、制限の多い日常を忘れ、少しでも和やかなひと時となるよう考えました。「気兼ねなく旅行に出かけ、お友達と笑い合える、そんな日が早くおとすれることを期待して、」という席主の挨拶は、今思い出してもしんみりします。



2021 第27回 テーマ「笑窪～幸せを求めて～」 会場 県立藤沢西高校



和親棚という和モダンな棚で点前をしました。伊志田高校がグローバル教育推進校だったこともあって、茶の湯とともに南蛮文化が栄えた、グローバルな桃山時代を現代に重ねてみました。

この年は、使っている道具をわかりやすく絵に描いて、会記がわりとしてお配りしました。



2022 第28回 テーマ「優遊」 会場 県立小田原高校

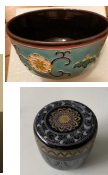


席が普通教室だったので、文化祭要素を取り入れました。外の壁には小田原の街角フォトを貼り、席中には名物「小田原提灯」を置いて、小田原をぶらりと散策する感じを演出しました。

個包装の菓子のために敷紙を作り、裏には「外郎売」の口上も載せて、「小田原土産」となるようにしました。



2023 第29回 テーマ「出会いの和」 会場 慶應義塾高校



↑〈世界からようこそその道具たち〉

慶應での二度目の茶会は、ラウンジ席の担当になりました。今も昔も、アジアやヨーロッパから、道具や模様、技法を取り入れ、茶の湯の世界で調和しているということがわかるように工夫し、担当校で道具を持ち寄りました。使用した道具がどこの国に由来するのか簡単な世界地図に記して、お持ち帰りいただきました。

2024 第30回 テーマ「慶祝」 会場 藤澤山遊行寺

記念行事ということで、遊行寺が会場になりました。伊志田高校の高校生茶会での歩みを感じられるように、今まで使ったことのある道具をまぜて、今年はじめての道具と取り合わせました。灰をふるい、炭を入れて、香をたくという、普段はできない体験もしました。また、短い時間でしたが、東京都からお招きした高校生の皆さんと交流もでき、楽しい時間を過ごせました。





3月 茶道部紅白茶会

炭を入れて、炉の点前をするのは初めて。
2組に分かれ、道具組も考えてお互いにおもてなしします。
卒業生も来てくれました。



6月 裏千家学校茶道茶会（相模）

2、3年生で参加しました。
渚棚を使ってお点前もしました。
2年生、校外での亭主・半東デビューです。



7月 裏千家学校茶道茶会（小田原）

2、3年生で参加しました。
春に紅白茶会を行った茶室で、お点前しました。

9月 文化祭（宿志祭といいます）



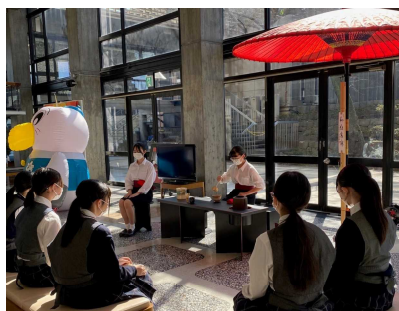
ラプンツェルの世界観でしつらえました。
お客の数だけ、ランタン（茶券）が灯ります。
（黒板！）



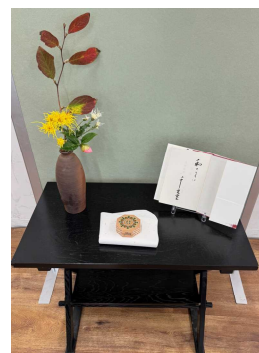
流れ星（饅頭）



10月 神奈川高等学校総合文化祭開会式



今年はお点前のデモンストレーションでした。
開会式に来る生徒たちに、ふつうに呈茶できるように
なるのはいつ？



11月 高校生茶会

「出会いの和」のテーマのもと、
私たちの茶席では、アジアや
ヨーロッパから取り入れた道具や
模様、技法などの紹介をしました。
「青海波」の模様もシルクロード
を経てペルシャから飛鳥時代に伝
わったといわれています。



青海波